

## 第 69 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 構造分科会 議事録

1. 日 時:2011 年 8 月 26 日(金)13 時 30 分～16 時 15 分
2. 場 所:日本機械学会 第 2 会議室
3. 出席者:浜田(東電)、西野(配管技術研究協会)、西田(三菱重工)、堀(パナソニック日立)、小高(富士電機システムズ)、堤田(日立)、齋藤(IHI)、北村(関電)  
代理者:井關(島田(東芝)代理)  
欠席者:一柳(中電)  
オブザーバ:谷川(川崎重工)、飯田(東電)  
事務局:海野(記)

### 4. 配布資料

- 69-1 . 第 68 回構造分科会議事録(案)
- 69-2 . 構造分科会委員名簿
- 69-3 . 第 56 回火力専門委員会議事録(案)
- 69-4 . 第 57 回規格委員会議事録(案)
- 69-5 . 火力専門委員会書面投票結果
- 69-6 . 発電用設備規格委員会書面投票結果
- 69-7 . 発電用設備規格委員会書面投票意見対応案

### 5. 議題

#### (1) 前回議事録確認

[資料 69-1]

前回議事録(案)について確認を行なった結果、意見等は特になく、議事録案は承認された。

#### (2) 分科会委員の承認

[資料 69-2]

谷川氏、飯田氏が新任候補として推薦されていること、及び齋藤委員の再任意向を受領していることが報告された。出席委員全員の賛成により、次回火力専門委員会に新任・再任候補として推薦することが承認された。また、位田委員の退任及び浜田委員が分科会後に退任予定であることが報告された。

#### (3) 報告事項

##### (3-1) 火力専門委員会・規格委員会他報告

[資料 69-3,4]

第 56 回火力専門委員会、第 57 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 基本規定案及び詳細規定案各分科会関連は、技術的変更を伴う修正があるため再投票を火力専門委員会から行うこととなった。再投票期間は審議要領に従い 2 週間で実施することとなった。
- ・ ASME からの SI 値取り込み方針については、規格委員会での決定に従うこととなった。
- ・ 日本鉄鋼協会 高クロム鋼WGについて火力専門委員会において周知されたこと

を報告した。

(3-2) 火力専門委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 69-5]

基本規定案及び詳細規定案各分科会関連の火力専門委員会書面投票再投票結果について報告した。

<投票対象>

- ・ No.53 基本規定案
- ・ No.54 詳細規定案材料分科会関連
- ・ No.55 詳細規定案構造分科会関連
- ・ No.56 詳細規定案溶接分科会関連

<各書面投票共通>

投票期間:7月19日(火)～8月2日(火)

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立, 投票数3分の2以上の賛成票数, 意見付反対票無しにより可決)

投票内訳:委員数 21 名

賛成 21 票

反対 0 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留・参考意見とも無し

(3-3) 規格委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 69-6]

火力専門委員会における書面投票再投票可決を受け, 発電用設備規格委員会での書面投票再投票を実施し, その結果を報告した。

<各書面投票共通>

投票期間:8月3日(水)～8月17日(水)

- ・ No.166 基本規定案

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し, 投票数の3分の2以上の賛成票があったが意見付反対票があるため, 提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 1 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留意見有り(分科会資料に添付)

- ・ No.167 詳細規定案材料分科会関連

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立, 投票数3分の2以上の賛成票数, 意見付反対票無しにより可決)

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 0 票

保留 1 票

投票意見:保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

- No.168 詳細規定案構造分科会関連

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し, 投票数の3分の2以上の賛成票があつたが意見付反対票があるため, 提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 24 票

反対 1 票

保留 1 票

投票意見:反対・保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

- No.169 詳細規定案溶接分科会関連

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し, 投票数の3分の2以上の賛成票があつたが意見付反対票があるため, 提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 1 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

#### (4) 審議事項

##### (4-1) 規格委員会書面投票意見対応について

[資料 69-7]

構造分科会に関連する基本規定案(書面投票 No.166)及び詳細規定案(構造分科会関連)(書面投票 No.168)に関し, 審議した。以下に特記事項を記す。

##### a. 基本規定案

吉田委員反対意見

(a)図 PG-58.3.1 および図 PG-58.3.2 の給水ヒータに Part PFH を追記する。

(b)～(m)既承認・既発行の範囲のものであり, 次回の改訂時に改訂の要否を検討する。規格原稿は原案通り。(i)は溶接分科会担当分)

##### b. 詳細規定案(構造分科会関連)

吉田委員反対意見

(a)既承認・既発行の範囲のものであり, 次回の改訂時に改訂の要否を検討する。規格原稿は原案通り。

(b) $y=0.4$  及び N06022 の  $y$  値は適正であることを説明。規格原稿は原案通り。

(c)PG-27 備考 11 指摘箇所の記載を採用できると考えた根拠を説明。規格原稿は前回修正案通りとする。

(d)～(e)既承認・既発行の範囲のものであり, 改訂の必要はないと判断。規格原稿は原案通り。

(f)JIS の改正に伴う引用箇所の変更漏れ修正であることを説明。規格原稿は原案通り。

(g)～(n) 既承認・既発行の範囲のものであり, 改訂の必要はないと判断。規格原稿は原案通り。

(o)規定項目符番の考え方を説明。規格原稿は原案通り。

(p)「注:他の硬さ試験の方法も使用できる。この時, ASTM E-140 の表を利用してブリネル硬さに換算できる。」の部分を削除する。

(q) 原稿修正案を HP にアップロードする手続き上での不備であるため、図の注釈に前回投票意見対応の通り式を追記する。

(r) ASME の SI 版を採用することに問題はないので、規格原稿は原案通りとする。

(s) SI換算については統一ルールで行っているが、当該部はチェック漏れであるため、「19.05mm」を「19.0mm」に修正する。

(t)(u)図 PW-53.1 について指摘された箇所は誤訳であるため、指摘通り「溶接」→「溶接部」、「板圧」→「厚さ」又は「試験板の厚さ」、「横軸方向」→「継手引張試験片」、「全て溶接金属」→「全溶着金属引張試験片」と修正する。「小型試験片」は「小型比例試験片」と修正する。図 PW-53.3 も同様に修正する。

(v)用語を統一するために「必要最小肉厚」を「最小必要厚さ」に修正する。

(w)136.4.1 の規定が適正であることを説明し、規格原稿は原案通りとする。

吉田委員保留意見

(a)～(b)指摘の通り、規格原稿を修正する。

(c)指摘箇所におけるパイプサイズの呼び径表記と実寸法表記について説明。SI 換算桁数に誤りがあったため、「609.6mm」を「609mm」に修正する。

(d)指摘の通り、規格原稿を修正する。

(e)～(f)SI換算の統一ルールに従い、規格原稿は原案通りとする。

(g)指摘の通り、規格原稿を修正する。

(h) SI換算の統一ルールに従い、規格原稿は原案通りとする。

(i)～(s)指摘の通り、規格原稿を修正する。

(t) SI換算の統一ルールに従い、規格原稿は原案通りとする。

(u)～(x) 指摘の通り、規格原稿を修正する。

(y) 指摘された規定化については、次回の改訂時に検討することとする。

(z)指摘の通り、規格原稿を修正する。

(aa) 補遺での解説が無くとも十分対応されているため、規格原稿は原案通りとする。

(bb)～(ee)指摘の通り、規格原稿を修正する。

宮口委員保留意見

1)～5)8)規格原稿は原案通りとする。次回改訂時に改訂の可否を検討する。

吉田委員参考意見

(a)～(d) 指摘の通り、規格原稿を修正する。

(e)～(f)今後、改善を検討する。

(g)～(l) 指摘の通り、規格原稿を修正する。(除く(i))

(i)「荷重」で統一されているため、規格原稿は原案通りとする。

#### (4-2) 溶接分科会委員の浜田委員後任について

[資料無し]

現在、浜田主査が構造分科会を代表して溶接分科会委員に就任していたが、社内の業務分担変更に伴い、火力専門委員会員及び各分科会委員を退任する意向であることが報告された。加えて 24 日に開催された溶接分科会にて三原主査から後任として構造分科会からの委員就任を強く要請されていることが伝えられた。協議の結果、後任については、次期構造分科会主査が溶接分科会委員候補となることとなった。

6. 次回開催予定

日 時:2011 年 11 月 8 日(火)13 時 30 分～17 時 00 分

場 所:日本機械学会 第2 会議室

以 上